

視察報告書

下記により、議員研修を行いました。視察報告書を提出いたします。

平成29年11月10日

光市議会議長 中村賢道様

日本共産党

土橋啓義

会派に所属していない議員

大田敏司

記

- 1 研修年月日 平成29年10月22日(日)～10月24日(火)
- 2 調査市町 北海道白老町、登別市、栗山町
- 3 視察報告 別紙とおり

視察報告書

平成 29 年 10 月 22 日から 24 日にかけて、北海道白老町、登別市、栗山町の視察研修を行いました。得られた知見について、所感を報告します。

最初に伺った白老町のアイヌ民族資料館資料館では、学芸員より、約 2 時間、歴史や文化、習慣などの説明を受けました。

アイヌ民族は、北海道から東北地方一帯にかけて住んでいた先住民族です。

その数は、当時約 200 万人とも言われておりますが、現在、約 4 万人にまで激減したとのことでした。

「昆布」などの言葉に代表されるように、アイヌ文化は、私たちの日常生活に自然になじんでいます。こうした文化は受け入れられていても、昭和後期まで、アイヌ民族は理不尽な人種差別を受け、苦しい時代を送られてこられた悲しい事実があります。

差別実態を目のあたりにし、私たち人類は皆同じ人間であること、同じ過ちを二度と繰り返さぬよう歴史を風化させず後世に伝えていく必要性を改めて感じたところです。

続いて登別市議会に伺いました。登別市議会議長が最初から最後まで

説明していただくなど、たいへん熱意ある対応を受けたところです。

視察項目について、登別市議会では「議会報告会」を「議会フォーラム」として開催。テーマを決め、主に市民との意見交換に重点を置き、一時期は6月定例会を中止し、「議会フォーラム」を優先した時期もあったそうです。

また、各常任委員会では、委員会の重点活動を定め、経緯・比較検討・内容・政策提言といった内容にまとめ、政策提言書の作成提出をなされておられました。

そのほか、議会サポーター制度の導入、議会基本条例チェックシートの導入など、登別市議会の改革姿勢には大いに感銘を受けました。

最後に栗山町議会に伺いました。栗山町議会は、日本で最初に議会基本条例を定めた議会として視察の絶えない議会であり、当日も宮城県の栗原市の議会運営委員会の方々との合同研修視察となりました。

栗山町議会の特徴としては、「開かれた議会」を合言葉に以前から議会モニター制度を導入。現在市民モニターの数は10人から12人にまで増え、町議会はしっかりと市民モニターの意見を聞いておられました。また、専門サポーターも確保し、議会のチェック機能を高めていることを感じました。

そのほか、本議会や委員会の状況を住民にお伝えしていくため、テレビ放映を実施。本会議あるいは各常任委員会で自由討議を行い、どのような審査が行われているのか町民の皆さんに伝えていく姿勢を強く感じました。市民に対する情報開示の姿勢など、たいへん学ぶことの多い研修でありました。